

ラジオ放送「福音の光」説教

「神様の招き」

マタイの福音書 1 1 章 2 8 節

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」

皆さん、おはようございます。お元気にお目覚めでしょうか。皆様はそれぞれ幸いな新年をお迎えになられたこととお察しします。

「一年の計は元旦にあり」と言われますが、一月も下旬になり如何お過ごしでしょうか。

天地万物を創造された神様は、私たち一人ひとりに命を与えて生かして下さるのです。その父なる神様が私たちにイエス・キリストを通して「私の許に来なさい。あなたがたを休ませてあげます」と招いて下さるのです。様々な悩み、苦しみ、問題の解決を約束して下さるのです。

私達は毎日、四苦八苦しながら生活し「重荷を負って苦勞し、疲れ」を覚えているのではないのでしょうか。「私には悩みも苦しみも何もありません」と云う方はおられないでしょう。また私の現実を「誰にも理解して貰えず、知っても貰えない」と思い、悲しく、辛い思いをしておられるのではないのでしょうか。戦国時代に天下を統一した徳川家康は晩年に「人の一生は重きを負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず」と語ったと言われます。けれども天の父である神様は一人ひとりの悩み、苦しみを知って「私の許に来なさい」と招いて下さるのです。

ある牧師が「人生四大問題の解決」という印刷物を出しました。

人生の四大問題とは第一「生活の問題」、第二「罪の問題」、第三「病の問題」、第四「死の問題」の四つです。

第一の「生活の問題」について。私達は日々「何を食べようか何を飲もうかと、自分の命の事」。「何を着ようかと自分の体の事」。そうです。衣食住の事で思い煩い、心配事が絶えないのです。しかし主イエス・キリストは「空の鳥を見なさい」「野の花がどうして育つのか、よく考えなさい」、「種まきもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしない」のに、天の父が養い、「働きもせず、紬もしない」のに天の父は花を咲かせて下さるのです。まして天の父なる神様は私達にもっと良くして下さらない訳がないのです。

第二に「罪の問題」について。皆様の中には「私は警察に捕まったこともない」し、「特別に犯罪も犯したこともない」から「罪とは無関係です」と言われるかも知れませんが、ご無理もないことです。しかし「罪」とは具体的に「悪を行うこと」は勿論ですが、「良心の咎め」をも意味しているのです。天地万物を創造し、私たちに命を与えて生か

して下さる「天の父なる神様から離れ、自分勝手に生きている」ことが罪なのです。この罪を解決する為にイエス・キリストはこの地上においで下さったのです。「正しい人を招くためではなく、罪人を招くため」に来られたのです。キリストは罪の問題で苦悶している私達の為に十字架に架かり、赦しの道を開き、神様をお父様と呼ぶことの出来る道を開いて、「私の許に来なさい」と招いて下さるのです。

第三は「病の問題」について。今日は健康ブームの時代です。食生活のみならず体力の維持の為に運動への関心も高いのです。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人」なのです。イエス・キリストは「真の医者」としてこの地上にお出でになりました。イエス・キリストは「魂の医者」であるのみならず、「肉体の病をも癒して下さる」御方でもあります。ただ単に病気が治ることばかりではなく、病気に打ち勝つ力と勇気をも与えて下さる御方なのです。

最後に「死の問題」について。「人間には、一度死ぬことと死後に裁きを受けることが定まっている」のです。なぜ人間には「死の恐怖」があるのでしょうか。様々な所で数字の「4」は「死」を連想させることの故に、忌み言葉の一つとして嫌われています。それは、人は如何に「死」への恐怖があるかを物語っています。何故「死は怖い」のでしょうか。親しい人からの離別も大きいでしょうし、この世の執着心から色々な物を失うことの恐怖があるのでしょうか。しかし最も大きな要因の一つは「罪の支払う報酬は死である」からです。自分の罪が清算されていないがために「裁かれ」、神様の居られない「黄泉の世界」に行く事への不安から生じているのです。人間の理性はそのことを否定しても、魂は知っているのです。そのような私達に主イエス・キリストが「私の許に来なさい」と招いて下さるのです。一人ひとり神様の招きに感謝して「天の父である神様の許に立ち帰ろう」ではありませんか。「神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠の命」なのです。

皆様の中に「生活の問題」や「罪の問題」或いは「病気の問題」で苦しみ、更に深刻な「死の問題」に不安と恐れを持っておられる方はおられませんでしょうか。「私の許に来なさい」と招いて下さるイエス・キリストの御許に近づき、キリスト教会に足向け、「真実な平安」に与って頂きたいと願っております。